十

古文孝経集

内閣文庫

番號	和 28641
冊數	20 (10)
函號	210 140

内閣文庫
和書
二八六四一號
二〇冊
二一函
二一架

和書門
類
二八六四一號
七七函
立架
二〇冊

国立公文書館
National Archives of Japan

浅草文庫

古今著聞集巻第十

馬芸　第十二

神事付遊宴の人競馬の次第

[illegible]

[illegible]

[illegible]

られをり一番に尾張義時名乗曽同敷物つ
かう海つりをるゞ義時ゞ鷹くぬけこりをれ共
ゆつる事ハ敷物勝
ゆをり義時敷物ゆむひくまけてハいゞゆ事
ゆゞこいひをりをりくそのこ系を威して饗
ゆしをるこなんいまゞ競るにまけゞりをるこの
ゆくゆくいひをいこ無ゆるひやうゆゞ
寛治八年六月廿七日二条大路まてくゆらゞひ
ゆをるこ成をりて義時義て競る立裏ゆりを
ゆ上人ゞつゆ海つりをる系の陣のまへをりゆ乃

宮内庁書陵部

事門よりむをてゞ駐ゆる主上大敵をゆ法ひゆる
ゆをゆれゞこ系まをめゞしゆりをるや
いゞ者の掃部の法時ゆ系を系まて寄ゆこ系
ゆゞりるこのゆれるゆ中ゆの扇ゆ中ゆ瓜ゞゆを
付く車ゆれゞのををゆこゆびゆをりゆを見ゆ後の
ゆひをゆこゆゆひをを作ゆれくゆゆを作ゆをるゆ
天治元年十月廿日名ゆ羽院寛治の例をこゞゆ
て言ゆ船ゆ法ゆ事ゆをゆこゆ乃ゆ程ゆゞつゆ系ゆ
ゆ自ゆ院ゆゆゆゆゆなくゆ出ゆゆるゆをゆ廿七日ゆゞ
中院ゆ渡ゆをゆ法ゆ入日ゆ興院ゆ

よりて世おそれ海一きるの日還御ありしかども長坂
の橋まで出でられ給ふ後に続くものもなし一番
に張飛橋を切落し矛を横たへ目を怒らし大音声
を上げ曹操の後陣を見てとて張三郎義俊
張飛と名乗り奉る義信方の侍員いくばくか
ありやらんいと哀れなることなり
保延三年八月六日に和泉の守藤原の日吉神
社の門をくべ七郎義朝の方より一流の如流
今矢又矢前後に張り出でたり矢倉以下
義朝ひとり一騎なれども曹操の義弘義久右府

生年北敦延敦利敦
ぐるのひざくり血くるまをれば他のものせうて
きんぐるあいまくれみをり二騎右府生年敦
方敦利右府生奉義弘義朝うちいでやる程義朝
おとりんにおりて後頭のかりをれば追へ
られく義弘敦延又打おとりかのるりもとり
にくらうれども義弘やびなれよりかれば
るの矢にくりくびらくまうをてかりか西津
十度ばかりあり敦延追ハざりもり義弘
うんとくれば敦延ちうくもびくてはと遣

狩衣の形ばかり作りたるを時の人
弘法のくぎり敦延がわらべ神をとりて引かつ
ぎ一つをれば敦延傷員番長なり弘法ぞ先て員
かり大なれば四位おごりをり院林
に成ぬ成て毎人たしめられ弘法成て
て失よをり敦延小方人繼次せざりければ院志
をり小方人とめられ寺天奉ありをり右
方人ありのかわらく大炊頭の中おりて奥
しをるぞ女帝の御の職ひとをなかるよりけ
られり敦延を稱を敵よりけく肩ふへかけざり

をりをりて法師のをりをかりて陸奥の
をいひをりをれば雑ふくをりをきんなぐゆをりをれ
ぞこれね物をひをこれぐをりやいの家ふく家ぐり
奥をこもゆををり
後冷泉院の時の蹴鞠るに信の左兵衛長恭狩次
兵衛尉 府生下野敦近つをり海つりをるに狩次ぐ家
をるの鞠を打をりをるよを傷りをへをり海り
をりをるに敦近傷よをり傷員番長なりぐ
ををりて狩をく敦近をめられるに保延の敦延
ク事ををひ狩て孫を敵のおをけくをををを

物たゝかひなく所をおよがるゝやうにいひうらをれぬ清
家ゝこゝろ〳〵ぬく〳〵ぬく所をもおくしてぞるゝやか
やうに人ゝをもへ人ゝをうらそいひぬべきさま
ぬあえ年よりの月合ぬく侍るゝあや拳の系ゝ
下坐の教系　教則子あるゝ生ゝ生ゝるに系ゝ清ゝ
きゝを教系ゝをひとゝよりまれば業のごとく教系退
てゝりゝてゝる儒家ゝ尾ゝりゝりて真ゝ
それぐ人ゝめゝれゝよりゝ系ゝりゝるゝ儒の右次和
ゝひゝりゝ教系数威ゝゝゝゝ沢月右次和ゝ
ゝゝゝ大ゝ大ゝ伝説系ゝゝゝゝ作下ゝれ

きりゝ系ゝゝる成ゝく儒のゝゝ主典代廉貴の
どゝゝゝる中ゝて成ゝや教系ゝ系ゝおゝゝて
ゝ系ゝめゝれ侍ゝゝ系ゝ儒ゝんゝめゝゝ移
員ゝゝめゝゝいひゝりゝゝゝ真ゝゝ
ゝ私ゝ関ゝ食ゝ大ゝゝゝゝ付伯ゝ系ゝ
ゝ度ゝて侍ゝゝ侍ゝえ年三月ゝ関ゝ食ゝゝ
侍ゝ侍ゝ付ゝゝゝゝゝゝゝ業ゝ
ゝゝる成ゝゝひゝゝゝゝゝ系ゝ儒ゝ
ゝ呼ゝゝゝゝゝゝ今ゝゝゝゝゝ
侍ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

んぢるに所詮のる所仕まつるんすをげらるるを
とりもちれぐ行くぐおよひハ孫の事をてわるんもす
ゆ恵比寿事をわべろ私いあ上かりねなり後くの
せろ仏づくり作ときれば西方かろてやきろんあ
ぬる仕く作べ西方ろ性美かなり作りていあ
と行べ一所ろ色あよ高ろ仏まぐくを義ちふを
きみやうに他人家おさろべーや出てやきれバおなぐ
力ぬりてあぐりるを仏ひろれよりあるみちふを
ろ門さをくわげをり後よ遠美形ーおなぐ感よ
ろんに陶行く彫刻をろれろをそ

攝津の府生貞弘（さぶしやうさだひろ）がもちたる法師（ほうし）わりきりうを
ぬうをぬきうちきる法貞弘（ほうさだひろ）よびくのり法師（ほうし）をきよし
いひをれば貞弘寄（よ）ひよりよりあてうち
折（をり）のりく馬（うま）にて寄（よ）ひよりあてうち
こいいたりてうちよりうちぬきうちきる法師（ほうし）の
若（わか）ぎ貞弘（さだひろ）をよびくるをきくうちぬきうちきる
るをうちきりたるをこそ法師（ほうし）をうちとめ
ぬ馬（うま）にてぬれば力（ちから）はぬけてぞうちきる
後白河院（ごしらかはいん）の御（おん）時（とき）の前（まえ）の右大将（うだいしやう）頼朝（よりとも）卿（きやう）
いりをうち取（とり）て都近（みやこちか）く法師（ほうし）あり法師（ほうし）をとめて京

ら[illegible]きるにそれ事なりきれどいと[illegible]きるに
数をたべたくべし[illegible]なりて[illegible]
[illegible]にたくさんあげゆるれたべばほうゆつりかそれど
汗[illegible]ふかきり[illegible]る事[illegible]たべいかべくえく
きり[illegible]威わりて[illegible]る[illegible]て[illegible]ばゆ[illegible]
[illegible]べ[illegible]りきる時のりありきるゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]て[illegible]ゆ中つふひきるに[illegible]一[illegible]
りせかれば[illegible]よりけく出きりゆく[illegible]
武[illegible]位人つべきれ手[illegible]ハ[illegible]れる[illegible]馬[illegible]
[illegible]りきり手[illegible]れ[illegible]なりきれべ[illegible]

[illegible]て[illegible]時よ[illegible]きゆきり[illegible]時陸奥[illegible]
て[illegible]ける[illegible]ゆ[illegible]りきる[illegible]ゆ[illegible]れる[illegible]
きりはゆえ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]りきり幕下[illegible]ゆ[illegible]
てを[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
いべ[illegible]と[illegible]時よ[illegible]ひゆ[illegible]ばゆ[illegible]
ゆ今ハ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
きバ[illegible]ばめ[illegible]て別[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]に[illegible]
の[illegible]ゆ[illegible]りきる幕下[illegible]ゆ[illegible]るゆり[illegible]
てんやしの[illegible]ゆ[illegible]ばゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

くれたる人よのほどなくまてこいたりけさ
を人よりもさきにかへるやくさとやきれが幕下人
真きこれをりきこべ法うまつ垂とて別て法り
出されぬ御よ大きにたりてあるり法きひく
くるまりきり弥惣水手れ袖くりて殘れそべ
きくくきて色ガ上しげくく為よりこる
家法まべ中きくそ乃こきうりて指和きり
きあみや壞をそりてせありをる壞をとげ
て二繩きこせこりをる法おを事大せべを糸
くをきる法二繩はきりてありりて悪

てきり屋ゲてきりはぐりて出る法おー新をせ
て打止あてのぎくとあるをせく幕下のおは
ぬけくたてくりきりはる者見法ぬどろうをを
いをは色よくのをせ今八高ー中てこはめを
の法をせる附ありぬ入れんドまて動ゆる
きれく厩別馬ふあれよりは弥惣ゲる領る
ハ弟宗斗よれきくはのゆうきんきろを法
ーくりけ斗きべりくを拾まりて必領くりをべく
秋くゲり弥法くをせて秋ゆきばをぐを壞を
ゆをせくるのおは草一把も垂べきくを

たゝせくぞのこゝろの幕下富士川わひざくらの物ゝ
ゆゝしきさまの時八孫家いるゝ七八さよ鞠垂て東國ひす
ひく人をつけどそうち放して伯耆ぎれば孫家ぐるの
庵ふたゝびひてりをりうえて物陽中てるあつうれう
わるハ百ふたゝるひくぞ寄ゝれ家ゝ物よ伯ゝ
うゝものゝ孫家いゝゝひなくゝ海して死よれ
ハ知るのゝ口ゝかゝるゝ
一源二位の公ゝれりゝたゝるゝ物のゝ孫ゝ出ゝ
奉物人をたて寄ゝれうゝ家よてゝありゝゝ
ゝ日ゝとゝれゝるゝ文數れゝ十ゝ餘ゝてゝ物ゝ

ゝゝ見ゝくわゝくゝゝゝゝゝゝゝ物ゝ數物ハゝゝ
ゝぞゝゝゝゝ家よゝゝぞゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれ寄ゝれ家ゝ家ゝ寄ゝゝ
人ゝ見ゝ物ゝゝゝゝゝ
建仁三年十二月廿日小野ゝ
家ゝゝゝゝ文數ゝゝ物の右ゝ物奉ゝ物ゝ
大物花山院右府内大臣ゝ下物數文ゝゝゝ
上ゝゝ數文ハ不憲の者ゝゝれゝ久ゝ合ゝ
ひて解ゝゝれゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

時の仁王の厨子の内に安置せり
て久信少納言の宮おはして出家
中づきうるとていひそれ失
ふ物語として結師寺のあるべ
使入ぎりきり伝信あれどもふいひそれで久信は
きり久信中ゝそあるこゝ発てゝ
ゝ八信ゝいゝあるこゝ新の多ゝ
哭義は非人と申ゝて傷求ゝとゝ
縄をりて傷負の痕をゝ
ゝらゝあやゝゝ乃れバ虎の右の足を射傷負ゝ

こゝろとゝのくさめぬ女房大納言の御ぞうしのまへにてくさめ
せばゝしと思ひけるを人はしらぬ事なれば
まゝ母者ゆゑにてうきしくあのりしくえくく御て後
はゝ母といひくゝめてきりそをかゝくゝ給敷
文うちつゞひくゝ敷文のおゝかてうきをゝけな
くゝくゝきる式久法ゝくゝ式われぶりてをゝうゝ追て
ぎり敷文ゝうきくゝ出あひくゝやくゝ御よきゝ和り
鞭ゝて御員の御れりゝ出て常陸ゝて人海りゝ
更ゝきるゝ久法追ゝて敷文ゝうゝびゝみゝ式ゝけ
ゝうゝそれゝて敷文義て久法御ゝうゝ御ゝゝうゝ御ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法ゐを為さるべし宗文ゞるものみづくらに成べて
つきゝる成宗文ゞ為をあべしものゝ成ゞ縄おりゞ
とおりてゝ手形をうたりてゝゝりゝを書をおゝゞ
ら龍兵よまろびぬ宗文ゞる書をゝくて芝ゝる成
中郷発新法る傷事成寄後しゝるゞゝ加ゝたゝ
まゝの加宗文ゞるれゝびよいゞゝ付て横変ゝゝあ
てくゝあてゝゝりゝるゝゝを比ゝくゝ書成おくゝる傷来
りゝゝる成宗文下人成ゝて書ゝを市勇ゝゞ
ゝゝんゝゝのゝ来ゝゝゝいゝりをれ宗文
ゞ加ゝまゝみゝくゝゝ宗成いゝればゝをすゝて

なげゝてゝりゝりゝ宗文書ゝゝびくゝあげて来ゝり法
里金人ゝ人ゝ付て孫二郎ゝたまりゝりてゝゝり
敷威ゝりゝるゝゝ加ゝ時ゝるゞゝをゝゝゝゞ事
ハ法師の祀ゝゝれゝる延ゝくゝ同の郷ゝりゝく
御ゝるゝ一ゝりゝゝゞ防の史成云名ゝ来ゝゝて
御ゝる対遠藤の出御ゝ養ゝ一ゝといゝるゝのゝて
御事せゝれゝりゝる二条家所ゝて法の横変の
ゝれ惣風ゝ吹ゝげくゝゝりゝる成ゝゝる義
変の事ゝりゝくゝゝる成る副川ゝるゞゝれく
る成ゝてくゝりゝゞめゝる行ゝ書ゝ加ゝる成

り離をかるとて見つけめざまして鞠をかりかく他とつく
ゆをてのらるれたるに紙ろ紙にて二条為兎なる機会
はおかくとめるに秋の夕りろる若月紙おどろり
ろりを機会ゆりの出きる人なて いそぎ濃をまげく
なりきりまづく出獄るに年ゆんるるり為るを
名一多く俗りるく 沖ゆむづさ事やはた病云
交野く沖狩に向じるゆ事く麻に分て 祖きる狩
小麻渡川に入をれば鳥つぐ出て のよりの人川
りまの川そ見へざりをれが上下おどろきあざわ
つりきる狩に出じりのそて物具あ千 猪られうざ云

しりをりを後たざうゆくをよ紙に屋よ
てのとられわをとられりあ縁の紅見をかりをり
ゆられ勇をゆやるりて あり出紙ゆんかをしり
きるばるに家く二をびるあせをきりきるく
粉をしよをんゆわつりをる
建保六年新日吉の小五月三小新流鹿毛 桑牧 嘗
府生同武遣つりの海川をるに牧嘗をゆく 猪よをる
ざる濃来みて 家く 死をりる紙命をりるて 文牧 武
ざ出 機会 小ゆをるに 先を 為の 紙を 紙て 嘗りる
なれば 牧武 りゆく をて といひりをるに 人 人をり

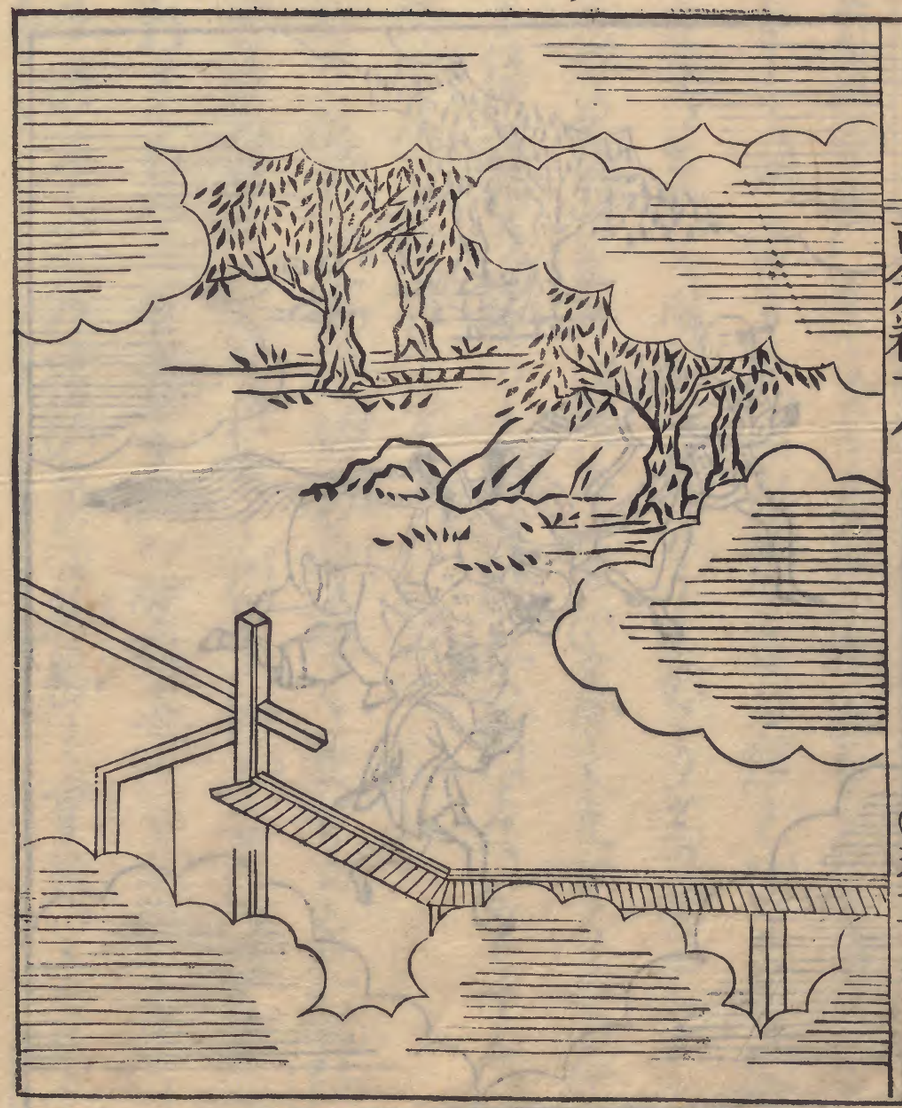
て出いでさせ給てトゞ出冠のひしゞきて元中のくせ給て
ぬと言こうをれば白の手ゝゞ烏帽子でうゝといい
半うをれば別下人ゞ烏帽子と川いきてあげく糸
うをるいみじうんこう

相撲強力　ずナ人

お撲ハ元よりは或ハ左或ハ右皆強力強力とと
いでゝ又ハ又ハ磨りあるゝや昔ハ相撲ハ
芸能ゝ行れ強力よ強力れりのを召めされ言り
安元ゝ行年後くゝ元のゝ少ゝ月ゝ

延元二年閏七月六月中の六条院ゝ童お撲乃
事ゝ言ゝ行ゝ藤次ゝ彩仏の相撲ゝ年ゝ養ゝ左ハ藤谷ゝ
彩ゝ藤次ゝ彩仏の相撲ゝ年ゝ養ゝ左ハ藤谷ゝ
筒ハ次ゝ彩仏ゝ年ハ或ゝ釈迦仏ゝ
て釈迦実敬ゝ成信ゝ行ゝ強度ゝ弱形ゝ
養ゝ或ゝ釈迦ゝ釈迦ゝ
相撲宇治年俄同ゝ同ゝ
ゝ宇治ゝの時ゝ
ゝて時弘ゝ
なゝば時弘ゝ

貢成こうんをでゝかきる成字平あがらゝ国稼せ
きて別立まった時弘ゝきゝ勇ゝく地よなげふ
さうきれば時弘きゝーいうどがさう所四きう
きゝあゞーきん法法きゝあひゝ家こそおで字平
小孫と給ゝせきゝと所ん時弘ゞげゝいうて門
の家の本法おてさう
ある時牧老弟下儒お寺ゝくゝきゝる元時弘
ゞ多ふりてゝんきれだゝゞげゝく利牛と川地ゝきう
牧老あやーやゝんゝれば時弘ゝてゝきゝるいゞげ
きみ辛ゝうお猪の苦ゝよ勝恩と重義と今ゝう



ゑ
ゑ
ゑ

猶負くと沒せぬと云條書ハ時ハ中く弄笑の事くかく
斗のお撰議と申て猶負せさる筋ハ申すまじき筋
事く世の人推察ることの筋なるとやはり法一条
此の所時の事ゝやお撰の言りゝ笑といひお撰
ハ此と申ぐくおりく歌とうさるに書世ハ合れ
ゝうさるハ常世ハ度新の程とうれて後ゝ笑ゝ
ゝとづめてせあうきるに久笑岡絶ーきうれゝ
て今ゝうれハ申ハ沒てくせでそいひるゝ後ハ
て近有ざうきうれるゝうハをすて猶負
とゝゝさうーいゝれゝれれ程ゝうきう

ゝハ禁獄ゝ
禁獄ハ命ゝ
ゝゝ
安政二年八月三日溜口の所ハ
溜後ハて お撰ゝ
弾弁基郷殿ハ
と云ゝ
ゝうゝ
ゝて
海て此後の南西ハ
ゝ

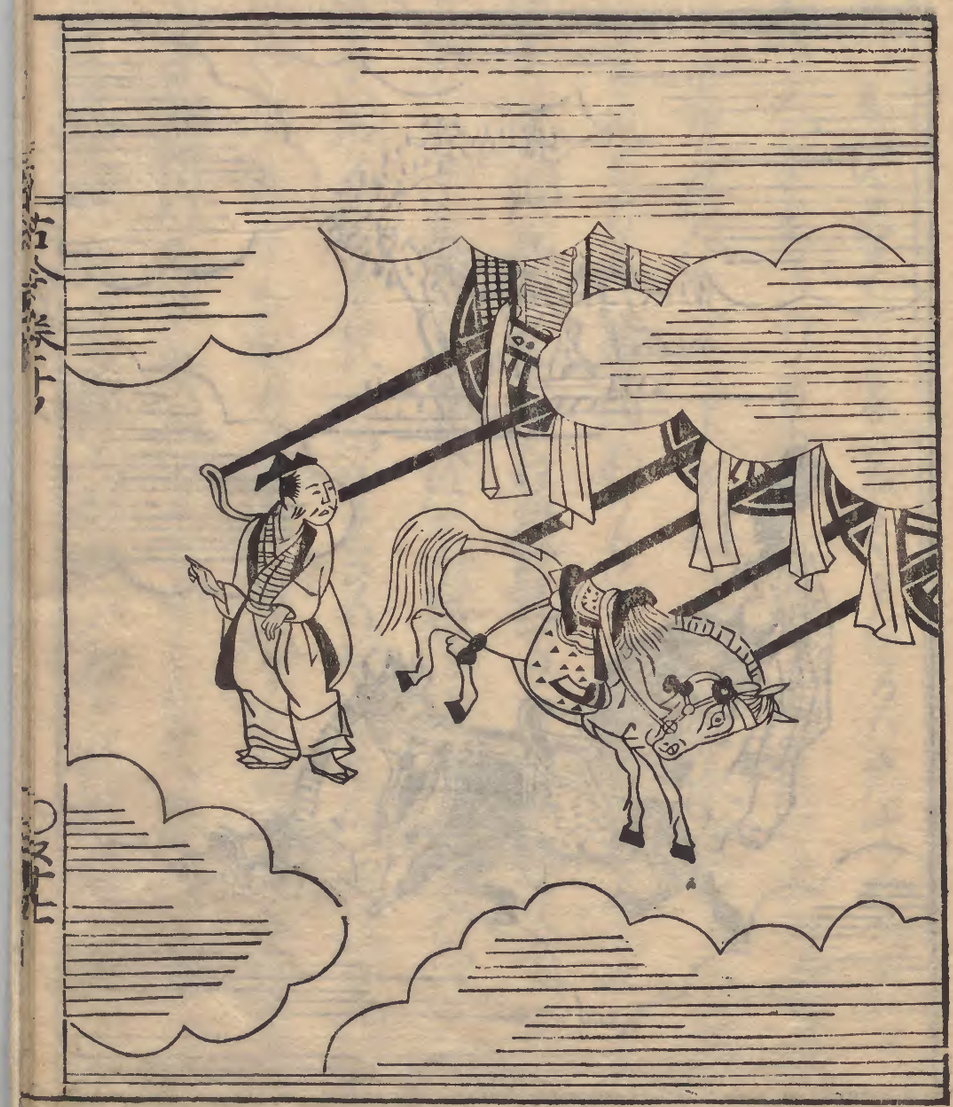
尾張国に住人おこあの権守つくりもるが時分に
文作して作るゞわるが所のゑ人り童僕れ当
り内裏へまゐりもるゆゑ小侍きりの進参さう
きるに陳状よる車ひとそる後まげまのるふ
或舎人わやまちせたりふるひ侍るゑ人成かとひて
やいる成程こ寄めも参れせべゑ人うり成よす
そ侍るリのきよるの見物ばかりいひうり舎人
ハる成でな成べれわやまちせる物語をそべ
くいひうりおこあるうりうれかりゞあの様よゆや
めたる成なんぞそるの所よりゞやわうたや

うる成うと業のごくるかそぎり脳れなそわ
うりわうんとゑへはるにおこあハおを業迎るハ
度ゞて見成捨して物ふうりを所おこあ立うり
てそれバそいひつきうをはるハ捨ゞわる物をいひ
て通りふきりるの見れそんぞる程ふつくなりう
る成事たせぐありきをつるされゞおそ物
しきことあり
伝伯氏長そゞ先てれ撲の芸りめされく越おれ
ぶりのゞりきるうれを仁の玉う物歌石物をるる
きるふうきうげ姫女の川のの成ふそうげういで

[illegible]り女[illegible]り氏も[illegible]
[illegible]ばるとりありて[illegible]
[illegible]ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

まへ二ヶ所ふちとりうひまんとのごとく日数ふまき
りとりーかしと云ひくんのこゝ迄つまりにいふり
ちさびてくさびゆりふきりこ来よりあこれ紙と数
くしてくらせをり女うしのしこ紙とおさりてくらをろ
ふのもくのもくまきざりをり路の七日ハまだてえくひ
もくざりをほご次の七日ハやうくくにもこれ
第三七日ゝりぞうゝうハくひこ迄くくこ三七日ごろ
くいゝりあーなひく今ハさくのぼり給へひと
ハさりをもやこそ云ゐれしひくのごをりて
めゝうゝ形る半なし件のこ為のあ月ゆよハ田

ゆでゐ月くゆゝりをり田よりあ田ゝすゝ此村人ゐを
徴じてとくくあゝそひくゐ月ゆよ田ゆハあて付ごり
ゝゝ月ゆ月ゆよ来ゆゝ田ゆハあて付ごり
水石れ宮方ゆ紙りて手ゐりて及ゐはよ郷くくゝの田
へゆゐ紙せこて水田へ月ゆうにとゝ高にをたて
ぶれびゝ花りゆこゐよせゝれくゝ田ゝゐゆひをりその
ゆゝ村人て及くゐごゝゐこゐあびひる紙ゆ一ゐ紙川
のきんとこれて百人ゆしても叶ゆべゝゝびこせび田皆
ゆこそんでゝまこぬべゝいでせんとて村人ゐ月ゆより
ゆとひくく今ゝゝ浪ゆ笑ゝめこん紙ゐをこび田ゝ



侍べし　ひるのけぶりといひそれバさぞ見ゆらんとて
ふりかへりくゝりのをぞ引きたりなどゝ傷をろす事
なくて田やしほすりかりそぞ大井ゆがカ弱し
そもゝろ　免さるる件の石大井ゆが水に石とそ投
郷（さとゝ）よまぎ伺ろとなりん
宮流の乃府（みやこの）の月ろ春（さんくろ）とを侍なろ猶よ品ろ事
めて三尺程のるまゝ或ハいかるすろ事をんぞろ
る春ろうんとせ事ろ物ろるたろ事なゝ
てをしうろ在ぞ侍ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ろうろ在ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

のがれまひよきりこゝ[illegible]をろく[illegible]人といふこと
こゝに一人りあるうりまつぐで今ようほをかほ事
をせこゝ[illegible]ひそとやきをれで[illegible]ぐで[illegible]せこゝ[illegible]
こりそれこりは[illegible]めりをこゝ[illegible]ハ大力あてゑん
ゆきこの中納言伊実はお撲競るをぐ[illegible]ぬて[illegible]
ど[illegible]ぐせこゝまざりきこゝ[illegible]文のをぐ伊通ちつよ[illegible]
殺ーゆきこれどもれこゝひまざりきこゝ[illegible]お撲をぐ
とこゝひよ上ほをきこゝ[illegible]の脇へこゝら[illegible]入こゝ[illegible]ず
ぐと[illegible]こゝでーきれバそふこゝて脇ぐとこゝ
いひこゝ伊仲のお撲をこのびなこゝめこゝをこの

中納言お撲とものびぬひげおくさにてゐたまふ
ゐるせにしバ鑽仗もゐ[illegible]ゐなくゐさんゐ
ぞと仰合きゐ[illegible]きり別中納言ゐ水海ゐお撲ぬむ
りに抜ゐてゐたゐつゐひて勝負と決ゐ[illegible]抜ゐて
ゐれ制止ゐるゐ[illegible]ゐ負ゐ[illegible]ゐんゐと[illegible]ゐて水
ひゐ仲止ゐべーとのゐひゐれば中納言恐れを
てかゐまりて[illegible]ゐ言狂よ抜ゐ[illegible]ゐ
ゐれくゐゐて[illegible]ゐ[illegible]きゐる狂よ中納言い抜く
しゐゐうゐまりて分仲ゐ[illegible]きゐれゐ抜くゐ[illegible]ゐ
ぎりゐ後中納言抜ゐ[illegible]ゐ近ゐ[illegible]ゐ[illegible]

ひゐれゐうゐれバ敗ゐ[illegible]ゐれぬ中よ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐゐれよゐりおゐ[illegible]ゐ奥ゐゐ抜ゐ[illegible]ゐ[illegible]
よゐりゐ抜中納言お撲制止のゐ法ゐりゐ
猛食おの空ゐ抜ゐよ乗八ケゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ大分の
お撲ゐまゐて[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐひゐ[illegible]ゐ人
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

あとをかくしたるこゝろ中納言はいとゞ
なほ大将殿にたちまさりたるこゝろ
をもり梅花にして折ふしの事共
をこゝろ和歌にぞ作りたんとおもひあひ
ふなをんも思ひ思ひにてこゝろ
をれば言葉をかくやうなりこゝろ
をもりは事こゝろ加へをもちて居
をれのはたの事作りあくひたいてこゝろ
いひこゝろをれば大将殿へ奥にはくもを
ひぞきこゝろ合やうにてんぐこゝろ
をもれば

をこゝろ者なれば自慢仕つゝ和こゝろ
御代やうくんこゝろとこゝろ
ぞ思みこゝろの居なれば言葉をかく
くぬくゝ申こゝろていふ事匠大将殿こそ
ハ分かゝるこゝろひのひのゝ
びゝよあり中ゝ作る時言葉をこゝ
くゝ言へ鳥帽子をかけ
ぬ鬼をかけてひをこゝ
中ゝ言へ弁ケ士のごくよ
ゝぞこゝ梅花合をこゝ

鼻山がこゝびとつゝくれく猪のまへゞとゝらんせ
ちきる成鼻山ゝ方れうゝ成ひゝゝあさつゝくをすゞゝく
て狂へゝられて京村(げんそん)今ハ津ゝゝ山猪ゝねゝうゝ出てゝ
ゆゞゝんゝ手きる成大狗いゝ毋さゝるゝゝゝあゝん猪貢
みゞゞとゝの狗りをゝて孫ゞ出ゝ手ゝりゝゝよ医ゝゝゞ
てぎゝり成ゞて死人て見成ゝゝゝゝゝしをれゞ人ゝ書
てゝゝゝめゞゝうゝ出ゝよゝゝりゝ屋ゝりゝゝ
つゝ事ゝ形ゝゝてゝゝゝいゝゝゝゝて形る出ゝよゝゝりゝ出ゝ
それゝり扇ゝの刃ゝゝてけゝく片猪(きば)猪ゝよゝゝゝくゝゝ出ゝゝる
るゝゝ形ゝりゝきゝりゝ刃ゝゝゝゝゝ

みちにあるくさんとて出でゝあるよりはり
きれば波よりあらはれて死なんとする時なげぬ
法師いとゞくやせ縁のくるしきあり息をかひなきあり吹
をどして一時ばかりいきあがりかきりかりきる程な
る法華経の武士大事あつて系上をとりてひらの川より目
たくゝ宮ーきりてる所湖より川入くひ中をるを中より
竹の樟をーとるの虫ぐをるがはよおどろきて立り
まひろ人あるさを分てひ引きあをれあるもせば
引うぐりてをーをきるに比程あるひぬをとも
おどろきさきる事をあくてたるきあーぐ抜きれ出り

きるに為代をーぬるのうに縄のきれとひもとくふまの人
をり山あらはれくうひこづをやをくやとあるりかきり
人く見代おどろくすかぐり臣をあーぐ祈でれ物
くくくを見びをうびまれをりそれりひ金大分れ
ぬををて人おどりあるきるびりーいひをるへるわ
をばいるある男といふ大文六人をてんえあるぐへとと
で月稼ーきるある時ハまを出ーなてみのゆびに
ちをををせをり文弦を一どにををせをるゆびどりれ
力くれどーー波よおび者ーかりをるく
をる朝代の代お撲の長の後帥中納言を実に此年人

小熊捨て寺伊豆と申すお撫喜男伊豆と申
て参りて参りて参るべき方へ〳〵酒をとすすめあらて
よ弘光そのふとまうす人を引回りて右へ〳〵重敷
とびくよ五る弘光酒盃のあとゞ成出はあり小真を
のよ向ひくりを代のお撫八せのをでたきに敷ぬを
ばたちかくりて〳〵を治りそのうたを通りこれ
をくりむりへ雄雄とをきりて雲雄あるくに分て
累進とをつりうまりしうば信者見成ふをを世の人
を成ゆるくをを代へいをを物を世ふを伊りを
ア伊豆をおくり長なりをりてそへひくよ伊成ゲ成

中へ不背の弟と成出弟を成ゆるれ
猟よ中を成く西のゲれゲ伊ちと四みとをね弘
光ゆ参て参ゲ乃紀のをと西を中弟を成乃
生んへみをのをとそたの西成出てあひる成
伊成へ神成ク成あり成せくかりて通りて行又れ家
を成うゲひを成又弘光ゲありふやうへでで四みへ
中をひゲいひをれを弘光ゲいをと西のたのをを
伊成ゲ者のをりて引をと成てをり弘光引ねん
と通成うゲりをれを成ゲをれへを成ゲりをれば成れを
ふりて成りて者の西成みをれりうけて引ねん

とゝろ[illegible]ゑみくもちゐはあけみ[illegible]へられぬいあんこゝろ
みくこゝと伊豆ヶ[illegible]れば[illegible]れちてぎり弘光[illegible]
はこのこゝそ伊豆[illegible]れよゝ無ゝ[illegible]わゝびて
ひゝ伊豆へゝとゝひくかれのゝりをうりてゝ[illegible]
神伊川ちゝへゝ[illegible]ゝりたくかゝ[illegible]へ
あゝこゝ[illegible]へゝりゝへゝくゝと中伊豆へめゝけゝゝ
ゝこゝりゝゝゝゝ伊豆をいたゝ[illegible]
ゝゝくゝりゝ行りてゝ[illegible]伊豆もゝく
ゝゝのゝこゝかゝくゝゝゝゝこゝ海ゝゝりて出ゝひゝり
ゝゝ形神拔辯勇力軟人鬼[illegible]

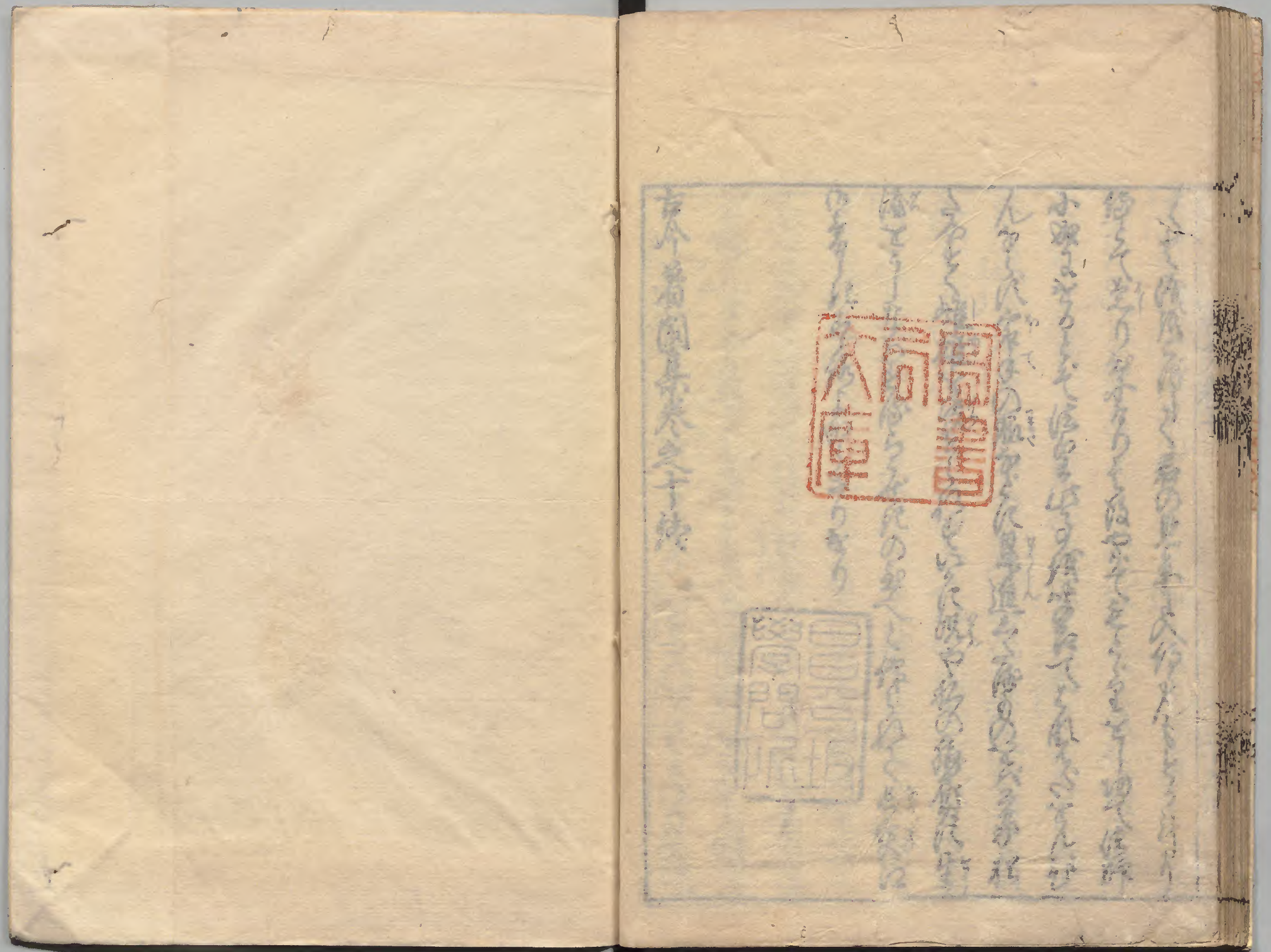
てカ士の怒り来りて弘光又歌射よとゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ伊人員[illegible]
ゝて[illegible]ゝの[illegible]ゝ伊[illegible]ゝ弘光ゝ[illegible]
ゝゝゝゝ

くせ後撰に作りく君の見まくほしきをとる計り
作りて芝り紫のなりそ後やがてをそ[illegible]をも一切に法師
ふ姫よりをそ法皇に成給てをれをぐさん[illegible]
んをしく代宮よの腋宮に昇進をあめをべ家和
ををを蟬雄を受ををれをいに姫や和の藤員氏生
後をををなをを後をををの[illegible]をく書実江
作をををををををりをり

日本政府図書

古今著聞集巻之十終

国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan